

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391000334		
法人名	株式会社 導夢		
事業所名	グループホーム導夢 (導)		
所在地	愛知県名古屋市中川区吉良町138-4		
自己評価作成日	令和7年1月21日	評価結果市町村受理日	令和7年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvovsoCd=2391000334-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階
訪問調査日	令和7年1月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様のペースで生活することができ、アットホームな雰囲気がある。 ・あおなみ線荒子駅から徒歩1分の場所にあり、ご家族様の来所や職員の出勤に便利である。 ・働きやすい環境作りとして、休みの取りやすいシフトになっている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

白と青を基調とした2階建てのモダンな佇まいの事業所は居宅介護支援や訪問介護事業所が併設され、開設7年を迎えている。あおなみ線荒子駅から徒歩1分という交通の利便性の良い場所に位置し、スーパーや飲食店などの商業施設や郵便局、銀行、住宅や保育園などが隣接している。居間などの共用空間や居室などは、ユニットや居室ごとにドア、床、壁などの色彩が工夫され、落ち着いた大人の生活空間を醸し出している。職員の人材や地域資源を活用して、グループホームとして何を大切にケアに活かしていくかを職員と共に考えたり、職員一人ひとりが向上心を持って意欲的に取り組めるよう毎月、自己の目標を設定して目標達成シートで評価をしていく中で、日々のケアに繋げるように努めている。入居者の「今まで培ってきたこと」や「今できる」を大切に、針仕事や習字、スペイン語など古の語学を会話に活かしたり、施設長と将棋を指したり競馬を楽しんだりして今までに培った経験を楽しみながら活かせる環境を整えるように努めている。また、独りでの買い物、季節行事の食事づくり、日常の家事仕事などこれまでの特技や趣味、生活経験などの継続も職員に支えられ楽しみながら行っている。食事作りの音や匂い、ドリップコーヒーの香り、全国から取り寄せた味噌での味わい深い味噌汁や職人手作りのラーメン、選べる湯上りドリンク、外でのお茶会など五感で楽しみ味わう「食」を大切にしている。明るいろリビングのソファや畳、椅子など自分の好きな場所で、気の合う同士や職員も交わってコーヒーを飲みながらお喋りをしたり、テレビを見たりしてのんびりと過ごしている。季節の花見や名古屋港水族館などに出勤する機会を増やし、入居者や家族の笑顔に繋げていく心積もりをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所などに掲示していつでも共有できるようにしている	理念と行動指針を事務所や各フロアの見て確認できる所に掲示している。フロアリーダーを中心に理念の共有を深め、行動の指針として日々のケアを振り返りながら実践に努めている。職員は毎月、自己の目標を設定して目標達成シートで自己評価をし、管理者やフロアリーダーからコメントや助言を受けながら向上心を持って日々のケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩で近所の人と交流することができている	町内会に加入し、町内会長や民生委員、近所の方や掲示板などで地域の情報を得ている。地域の行事も徐々に再開し、清掃活動や保育園の避難経路の提供、ハロウィンやクリスマスなどで園児との交流、地域の商店や飲食店などの利用が可能となり、日常に笑顔が取り戻せる機会となっている。また、散歩や地域の花見に出掛けたり、近所から庭に咲く季節の切り花を頂くなど、地域との繋がりを保つ努力をしている。駐車場に自動販売機を設置して地域に還元し、地域交流の場の一環としている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	少しずつではあるが地域の人々と交流の場を設けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の人を呼んで普段の様子や取り組みの報告をしている	家族や民生委員、消防団長、保育園長の参加を得て2か月に1回開催しているが、いきいき支援センターの参加は得られていない。近況報告やヒヤリハット・事故報告、イベント報告、情報交換などを行い、議事内容については職員で検討しサービスに活かしている。会議案内と議事録を家族や委員、いきいき支援センターに持参したり送付している。	運営推進会議は、家族や地域、行政などと情報の交換の場であり、サービスの向上に繋がる機会でもある。家族にとっても行政の意見や助言が得られる良い機会となる。再度、いきいき支援センターに参加の依頼をして、参加した方々の利となるような内容を検討し、サービスの質の向上に活かされることを望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	目に見えたものとしてはないが、取り組んでいると思う。	行政とはメールや電話、ファックスなどで連絡を取り合っている。行政担当者が認定調査に来所したり、生活保護や介護保険などの更新手続きや申請の代行業務などで関係窓口に向いた折に、サービスの取り組みや困難事例などの相談を受けたりして情報交換をしながら良好な協力関係を築いている。いきいき支援センター主催の「認知症を知る会」の講師を務め、介護フェアにおいては、認知症についての啓蒙活動や相談窓口を担当し貢献している。研修の機会として、動画サイトの研修を導入している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	動画研修で全職員の意識共有をして取り組んでいる	グループホームの年間研修計画に基づいて身体拘束廃止や接遇などのマニュアルを用いて内部研修で周知したり、ジョブモデルアカデミーを利用してプロの講師による動画研修も受けながらレベルアップに繋げている。日頃から身体拘束をしないケアに取り組み、職員同士で接し方などに問題がないかチェックし合ったり、拘束に対する意識を高め、スピーチロックや束縛感のない環境作りを努めている。入居者は、職員の見守りの中、開放的で自由な暮らしをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	動画研修を通じ職員に勉強する機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	動画研修を通じ職員に勉強する機会を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行えていると思われる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望は運営推進会議や面会の機会を通じてお聞きできていると思われる。意見の反映も行っていると思う。	入居者からは日々の関わりの中から思いを聞いている。意見や要望などは、申し送りノートや業務日誌に記録して情報を共有し運営に反映させている。家族からは相談室や居室での面会時や電話などで話し合う機会を通して、連携をしっかりと保ちながら意見や要望を聞き、「断らない」をモットーに、ケアや業務改善に役立っている。日常生活の写真や職員からの手書きのコメントを記載したお便りを毎月発刊したり、ブログを利用して行事の様子やお知らせなどを配信し、家族に安心を届けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議の頻度は不定期だが、職員一人一人の意見を聞く時間を設けていると思う。また、積極的に反映している。	日常の業務の中や引継ぎ時、職員会議などで職員からの提案や要望を聞き、運営に反映させている。管理者は年1回の面談の他に毎月、職員の目標達成シートを介して目標や進捗状況、次に向けての取り組みなどを把握している。また、職員が提出したシートに、職員自身の評価の確認やケアの指標となるよう、リーダーや管理者からコメントや助言を加え業務に反映させるようにしている。全職員とラインで繋がり、毎月の会議の内容やシフトなどを配信し、必要に応じて連絡が取れるよう配慮している。ユニットリーダーを中核として、やりがいや健康状態、勤務の希望や悩みなどを聞く機会を設け、働きやすい職場環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員ひとりひとりの事情に合わせて柔軟に環境を整えてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修の機会はあまりないが、ひとりひとりに合わせたトレーニングに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員の交流の機会はあまりないが、ご利用者や施設での訪問の機会はある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員ひとりひとりがしっかり行えていると思う。そのため環境整備も随時行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員ひとりひとりがしっかり行えていると思う。入所直後だけではなく、面会時には必ず直近の様子をお伝え出来ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。職員ひとりひとりが「その時」の対応を柔軟に行えており、同時に提案、検討もできている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員ひとりひとりが個性を活かして、関係づくり出来ていると思う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などを通じてこまめな近況報告や世間話を通じて、関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の希望などを汲んで支援に努めているが、積極的には行えていないと思う。	入居時に生活歴や馴染みの人や場所を把握し、今までしてきた生活が再現できる支援を目指している。家族や知人の面会、家族との外出、独りでの散歩や買い物などの継続的支援に努めている。また、入居者の得意分野や回想法を生かしたレクリエーションを充実させ、昭和の日や重陽の節句などその時々懐かしみや関係性の継続支援に取り組んでいる。針仕事、習字やスペイン語など古の語学を会話に活かしたり、施設長が馬券を作って競馬を楽しんだりして、今までに培った経験を楽しみながら活かせる環境を整えるように努めている。また、手慣れた家事仕事やレクでの貼り絵の指導を任せるなど得意分野で自分の経験を日常に活かすようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットだけではなく、他ユニットのご利用者との関わり合い、関係性も重んじて、交流の機会を毎日の中で作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	機会があれば努めていると思う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の中で職員ひとりひとりが把握に努めており、その時に対応出来る事であれば柔軟に対応している。	日常生活のリズムの中で入居者の気持ちに寄り添い、些細な変化を見逃すことのないよう心がけている。リビングで寛いでいる時に一緒にお茶を飲みながら話をする時間を作ったり、さりげない会話や表情などから感じ取ったことなどを申し送りノートや介護記録に記載し、職員間で共有してケアに繋げている。思いの表出の少ない方は、身振りやうなづき、表情から把握したり家族から話を聞いたりして、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の会話から引き出したり、ご家族と話すことで把握に努めている。また、それを活かしたケアを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の中で職員ひとりひとりが把握に努めており、その時に対応出来る事であれば柔軟に対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成できている。毎日の中での発見やそれに伴う意見の交換は随時行われ、見直しのためのカンファレンスも開催している。	日常の様子を記載したケアプラン実施確認表を基に、毎月のケアカンファレンスで職員の意見を反映させながら項目ごとにチェックし、検討している。3か月に1回モニタリングと計画の見直しを行っている。本人や家族の意向や思いを踏まえながら、医師や訪問看護師など関係者の意見を参考にして、現状に即した介護計画を作成している。状態が変化した場合は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の記入方法の見直しや方法について適宜話し合うことで、情報共有が潤滑になるよう努めている。また、実践や見直しに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在はそういった対象になるニーズがないため行っていないが、柔軟な姿勢は常にあると思われる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ニーズに応じて地域資源の活用を取り入れ、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	行えていると思う。また支援に努めている。	入居時にかかりつけ医が提携医の希望を聞いている。内科は月2回提携医による往診が受けられるので、全員提携医に変更している。週1回歯科医師の治療や義歯の調整と口腔ケアを行っている。週1回理学・作業療法士によるリハビリも受けられる。精神科は必要時に訪問診療が受けられるよう医療連携し医療の充実に取り組んでいる。専門医の受診は基本的には家族の協力を得ているが、緊急時などは職員で対応している。受診結果は報告書で確認し、申し送りで情報を共有しケアにつなげている。週1回、訪問看護師による健康管理、医師や関係医療機関との24時間連携により適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員ひとりひとりが気づきをその都度相談するなど、行えていると思う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換および関係づくりは行えていると思う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員ひとりひとりが方針を理解し、支援を行えていると思う。	入居時に、重度化した場合や終末期についての指針を明らかにして、事業所のできる事の限界を詳しく説明して家族の同意を得ている。重度化する可能性がある場合や状況が変化した場合は早めに入居者や家族の希望を確認し計画の見直しを行っている。医師や訪問看護師、その他関係機関と話し合っており、家族の意向や入居者の状態に合わせて、病院や他の施設の紹介など最善の援助ができるよう努め可能な限り希望に添うよう支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員ひとりひとりの実践力、心得などはあるが、現段階では定期的な訓練が行えていない為、今後内外での研修を取り入れ行っていく予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防訓練は行っているが、地域との協力体制は十分ではない。	年2回消防署や地域の消防団員の協力を得て火災や地震、水害など様々な災害を想定した避難訓練を昼間帯、夜間帯で実施している。入居者の安全確保や避難のため、夜間専従職員も夜間帯の訓練に参加している。避難誘導や避難経路、機器の操作の確認など、消防署員の指導や助言を受け、救急救命士資格保有の管理者と職員で問題点などを話し合い改善に努めている。隣接する保育園との合同避難訓練を再開し地域の第一避難所まで避難誘導している。地域の防災訓練の参加も再開していく方向にある。BCP計画の策定と共に水や食料、物資などの備蓄品はヘルメット、非常持ち出しリュックなどリストにより管理し外倉庫で保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ほとんどの職員が気をつけて対応している。また、ご利用者に合わせた言葉遣いも意識して行っている。	一人ひとりのこれまでの生き方を尊重し個々の生活スタイルを守り、より良く過ごせるよう配慮している。職員は、日々のケアの中で、馴れ馴れしさや特に雑になりがちな言葉使いなどに配慮し、いつ誰が聞いても不快にならない言葉使いや対応をしている。また、フロアリーダーを中心に職員間で言動をチェックしながら相互に注意し合える環境を整えている。呼び名は昔から慣れ親しんだ呼び方を家族から聞いて対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員ひとりひとりがそのように支援出来ている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員ひとりひとりがご本人の意思を優先に支援することが出来ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の服装など、ご自身で決めていただけるよう支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人が下膳したものはご本人が率先して洗ったり、得意なかが食事の準備をしたりと毎日、支援出来ている。	食材業者の献立表を基に栄養バランスを考えた家庭料理を中心に手作りしている。キッチンから聞こえる音や漂ってくる匂い、全国から取り寄せた味噌で味わい深い味噌汁の提供など、五感で味わう事を大切にしている。調理や準備、後片付けなどは、その人の得意分野を活かし職員と一緒にやっている。バラエティに富んだ食事を提供できるよう、お弁当やお寿司を注文したり、ランチバイキングや焼肉などを楽しんだり、おやつレクでは野外でお茶会をしたり、ホットケーキやたまご、おはぎや五平餅など入居者の希望や職員の発案を取り入れ楽しめる工夫をしている。また、のぼり旗を立てラーメン職人の作るラーメンを食べながら昔馴染みの店や屋台の雰囲気が味わえるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	そのように支援出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っている。自立の方はご自身の習慣で行っていただいている。訪問歯科での口腔ケアを取り入れ、そこでひとりひとりに合わせた口腔ケアの指導もしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	適宜、行っている。	個々の排泄パターンを把握し、さりげない声かけやタイミングを工夫してその人に合ったトイレ誘導に努めている。日中は布パンツで過ごされる方が多く、自力での排泄を目指している。夜間でも、尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切にしながら、睡眠も妨げることなく丁寧な見守りの支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適宜、行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望があれば、適宜そのように対応している。	入浴は週3回を目安に、午前中を入浴時間としている。リフト浴の設備も整っている。お湯や足ふきマットを一人ずつ入れ替え清潔に配慮している。入浴剤、ゆず湯や菖蒲湯、母の日や重陽の節句にちなんでカーネーションや菊などを浮かべ風情を楽しんだり行事の由来を懐かしむなど入浴が楽しめる工夫と支援に努めている。入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らい、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。入浴後にお気に入りの化粧水や乳液などで肌の保湿をしたり、それぞれの好みの湯上りドリンクも人気となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でもお疲れのご様子が見られた際には休んでいただくよう、お声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	そのように努めている。適宜、薬剤師に相談するなど、薬剤師との連携も図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現在、継続しての支援は少ないが、その日その時にひとりひとりの役割や楽しみごと、気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間での行事や、適宜希望にそって出かけられるよう支援に努めている。	日常的に散歩に出掛けられる環境にあり、散歩や近所の庭先の花を見に出掛けたりしている。お天気の良い日は、ブランターの水やり、ベランダや駐車場で洗濯干し、ベンチで日向ぼっこやお茶会など、なるべく外気に触れるよう心掛けている。家族の協力を得て喫茶店や外食に出かけたり、職員と一緒に近くのスーパーへ日用品や食材の買い足しに行ったり、独りで散歩や買い物に出かけるなど希望に沿った外出の機会を大事にしながら支援に繋げるようにしている。今後、季節の花見や名古屋港水族館などに出掛ける予定をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ひとりひとりに合わせて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ひとりひとりに合わせて支援している。希望があれば適宜、対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適宜、職員やご利用者の意見を取り入れて工夫している。	明るく風通しのよい食堂と居間はワンフロアで開放感がある。大きな窓からの見晴らしがよく四季の移り変わりが眺められる。ユニットごとに落ち着いた色調や色彩に統一し不快な刺激がないように配慮されている。キッチンからは入居者の動きや気配がよく見渡せ、調理を行いながら入居者を見守ることができる。廊下には足元照明の設備と、居間には洗濯ものを置く畳スペースやソファコーナーが備えられている。入居者は思い思いの場所でテレビや新聞を見たり、貼り絵などの作品作りや日常の家事仕事をしてのんびり過ごしている。入居者も掃除機を使って一緒に掃除をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	現在、そのようなスペース作りを検討しており、他ユニットのご利用者も一緒に落ち着いて過ごせる空間を作る予定。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の配置などご利用者と一緒に決め、過ごしやすい環境作りを心掛けている。	居室にはベットとエアコンが設置され、扉や床、壁紙、カーテンなどそれぞれ色や形を変えて個性のある自宅感を醸し出している。入居者は、筆筒やテレビ、仏壇など自宅で使用していた物を持ち込んで安心できる生活の場としたり、日常の習慣としている般若心経を唱えたり、語学堪能な方は日常会話に活かしたりして、それぞれが心穏やかに過ごすなど入居者の意向を尊重した環境づくりをしている。また、本人や家族が希望する小物や写真などを飾って居心地良く過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫するように努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391000334		
法人名	株式会社 導夢		
事業所名	グループホーム導夢(夢)		
所在地	愛知県名古屋市中川区吉良町138-4		
自己評価作成日	令和7年1月21日	評価結果市町村受理日	令和7年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail/022_kani=true&Jigyosv_oCd=2391000334-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階
訪問調査日	令和7年1月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様のペースで生活することができ、アットホームな雰囲気がある。 ・あおなみ線荒子駅から徒歩1分の場所にあり、ご家族様の来所や職員の出勤に便利である。 ・働きやすい環境作りとして、休みの取りやすいシフトになっている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

白と青を基調とした2階建のモダンな佇まいの事業所は居宅介護支援や訪問介護事業所が併設され、開設7年を迎えている。あおなみ線荒子駅から徒歩1分という交通の利便性の良い場所に位置し、スーパーや飲食店などの商業施設や郵便局、銀行、住宅や保育園などが隣接している。居間などの共用空間や居室などは、ユニットや居室ごとにドア、床、壁などの色彩が工夫され、落ち着いた大人の生活空間を醸し出している。職員の人材や地域資源を活用して、グループホームとして何を大切にケアに活かしていくかを職員と共に考えたり、職員一人ひとりが向上心を持って意欲的に取り組めるよう毎月、自己の目標を設定して目標達成シートで評価をしていく中で、日々のケアに繋げるように努めている。入居者の「今まで培ってきたこと」「今できる」を大切に、針仕事や習字、スペイン語など古の語学を会話に活かしたり、施設長と将棋を指したり競馬を楽しんだりして今までに培った経験を楽しみながら活かせる環境を整えるように努めている。また、独りで買い物をしたり、季節行事の食事作り、日常の家事仕事などこれまでの特技や趣味、生活経験などの継続も職員に支えられ楽しみながら行っている。食事作りの音や匂い、ドリップコーヒーの香り、全国から取り寄せた味噌での味わい深い味噌汁や職人手作りのラーメン、選べる湯上りドリンク、外でのお茶会など五感で楽しみ味わう「食」を大切にしている。明るいろいびのソファや畳、椅子など自分の好きな場所で、気の合う同士や職員も交わってコーヒーを飲みながらお喋りをしたり、テレビを見たりしてのんびりと過ごしている。季節の花見や名古屋港水族館などに出掛ける機会を増やし、入居者や家族の笑顔に繋げていく心積もりをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所などに掲示していつでも共有できるようにしている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩で近所の人と交流することができている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	少しずつではあるが地域の人々と交流の場を設けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の人を呼んで普段の様子や取り組みの報告をしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	目に見えたものとしてはないが、取り組んでいると思う。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	動画研修で全職員の意識共有をして取り組めている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	動画研修を通じ職員に勉強する機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	動画研修を通じ職員に勉強する機会を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行えていると思われる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望は運営推進会議や面会の機会を通じてお聞きできていると思われる。意見の反映も行っていると思う。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議の頻度は不定期だが、職員一人一人の意見を聞く時間を設けていると思う。また、積極的に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員ひとりひとりの事情に合わせて柔軟に環境を整えてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修の機会はあまりないが、ひとりひとりに合わせたトレーニングに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員の交流の機会はあまりないが、ご利用者や施設での訪問の機会はある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員ひとりひとりがしっかり行えていると思う。そのため環境整備も随時行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員ひとりひとりがしっかり行えていると思う。入所直後だけではなく、面会時には必ず直近の様子をお伝え出来ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。職員ひとりひとりが「その時」の対応を柔軟に行えており、同時に提案、検討もできている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員ひとりひとりが個性を活かして、関係づくり出来ていると思う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などを通じてこまめな近況報告や世間話を通じて、関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の希望などを汲んで支援に努めているが、積極的には行えていないと思う。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットだけではなく、他ユニットのご利用者との関わり合い、関係性も重んじて、交流の機会を毎日の中で作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	機会があれば努めていると思う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の中で職員ひとりひとりが把握に努めており、その時に対応出来る事であれば柔軟に対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の会話から引き出したり、ご家族と話すことで把握に努めている。また、それを活かしたケアを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の中で職員ひとりひとりが把握に努めており、その時に対応出来る事であれば柔軟に対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成できている。毎日の中での発見やそれに伴う意見の交換は随時行われ、見直しのためのカンファレンスも開催している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の記入方法の見直しや方法について適宜話し合うことで、情報共有が潤滑になるよう努めている。また、実践や見直しに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在はそういった対象になるニーズがないため行っていないが、柔軟な姿勢は常にあると思われる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ニーズに応じて地域資源の活用を取り入れ、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	行えていると思う。また支援に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員ひとりひとりが気づきをその都度相談するなど、行えていると思う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換および関係づくりは行えていると思う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員ひとりひとりが方針を理解し、支援を行えていると思う。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員ひとりひとりの実践力、心得などはあるが、現段階では定期的な訓練が行えていない為、今後内外での研修を取り入れ行っていく予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防訓練は行っているが、地域との協力体制は十分ではない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ほとんどの職員が気をつけて対応している。また、ご利用者に合わせた言葉遣いも意識して行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員ひとりひとりがそのように支援出来ている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員ひとりひとりがご本人の意思を優先に支援することが出来ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の服装など、ご自身で決めていただけるよう支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人が下膳したものはご本人が率先して洗ったり、得意なスタッフが食事の準備をしたりと毎日、支援出来ている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	そのように支援出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っている。自立の方はご自身の習慣で行っていただいている。訪問歯科での口腔ケアを取り入れ、そこでひとりひとりに合わせた口腔ケアの指導もしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	適宜、行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適宜、行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望があれば、適宜そのように対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中もお疲れのご様子が見られた際には休んでいただくよう、お声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	そのように努めている。適宜、薬剤師に相談するなど、薬剤師との連携も図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現在、継続しての支援は少ないが、その日その時にひとりひとりの役割や楽しみごと、気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間での行事や、適宜希望にそって出かけられるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ひとりひとりに合わせて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ひとりひとりに合わせて支援している。希望があれば適宜、対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適宜、職員やご利用者の意見を取り入れて工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	現在、そのようなスペース作りを検討しており、他ユニットのご利用者も一緒に落ち着いて過ごせる空間を作る予定。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の配置などご利用者と一緒に決め、過ごしやすい環境作りを心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫するように努めている。		